

静脈注射・採血を受けられる患者の皆さま

「静脈注射・採血」は、病気の診断、病状の把握、治療を行うための重要な検査・処置です。基本的に静脈注射・採血は安全性の高い手技ですが、時には合併症を生じ、治療が必要となったり生活が不自由になったりすることもあります。

当院でも静脈注射・採血は細心の注意を払い、実施させていただきますが、このような「静脈注射・採血」の必要性・合併症をご理解の上、静脈注射・採血をお受けいただきますようお願い申し上げます。



静脈注射・採血時の主な合併症

1. しびれ

穿刺部位にしびれや痛みが限定している場合は、おおむね 1 週間程で良くなります。しかし、1 週間以上経過しても良くならない場合は、神経障害などを起こしている可能性があるため、医療者へご相談下さい。

2. 神経障害・複合性局所疼痛症候群

静脈注射・採血後に手指に広がるしびれ、痛みが 1 週間以上続き治療が必要となることもあります。約 1 万～10 万回の静脈注射・採血に 1 回の頻度で起こるとされています。皮膚表層近くの神経分布は、個人差が大きいいため、神経損傷を 100%防止することはできませんが、通常の静脈注射・採血では、太い神経の断裂などの可能性は低いです。

3. 止血困難・皮下血腫

抜針後の不十分な止血などが主な原因です。
十分な圧迫止血をしていただきますよう、お願いいたします。

4. アレルギー

静脈注射・採血時の消毒薬やスタッフのラテックス手袋（ゴム製品）などで、かゆみ、発疹をはじめとするアレルギー症状が出現することがあります。

5. 血管迷走神経反応

心理的に緊張、不安が強いと起こりやすいとされ、静脈注射・採血前後に生じることもあります。神経が興奮し、急激に血圧が下がる、めまい、気分不快感、意識消失などをひきおこします。一般的に 0.01%～1%の頻度で起こるとされています。

※これらの合併症が生じた場合には、最善の処置を行います。
なお、その際の医療は通常の保険診療となり、ご負担が発生します。